

## 2022年3月期 決算について

2022年 5月9日  
JFE鋼板株式会社

2022年3月期の連結業績(2021年4月1日～2022年3月31日)

(百万円未満切捨て)

### 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2022年3月期	69,265	30.8	4,737	△ 218	3,197
2021年3月期	52,956	△ 17.6	784	△ 212	410

注 連結子会社数

2022年3月期 5社、2021年3月期 5社

(百万円未満切捨て)

### (参考)単体経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%			
2022年3月期	60,428	33.0	4,403	△ 218	2,973
2021年3月期	45,421	△ 13.8	1,202	△ 209	766

### 【当期の概況】

国内薄板建材の需要は、新型コロナウイルスの蔓延による低迷状態が底を打ち、着実に回復しました。新規住宅着工戸数(持家)は前年比+8%、非住宅着工床面積は同+12%と需要は大幅に増加しました。この事業環境の回復を受けて、当社の販売数量および生産量は、大幅に増加しました。

### 【当期の損益】

連結経営成績は、売上高69,265百万円(前期比+16,309百万円)、経常利益4,737百万円(前期比+3,953百万円)、当期純利益3,197百万円(前期比+2,787百万円)となりました。

単体経営成績は、薄板建材需要が回復する一方で、原材料高騰に伴う大幅なコストアップがあり、これに対して、販売価格の改定、連続カラー塗装ライン(CCL)の増能力、京浜地区休止による東日本製造所CCL集約効果(固定費削減、稼働率向上、歩留・原単位改善等)の最大化、徹底的な経費削減等を着実に実行した結果に加えて、在庫評価益等の一過性要因が大きく寄与し、前期比で大幅な増益となりました。

### 【次期の見通し】

国内薄板建材需要は、当期の水準を維持する見込みです。しかし、足元の世界情勢により当社の鋼板製品の原板となる薄板の需要は世界的にひっ迫し、薄板市況は高騰しています。更に、亜鉛・アルミ、塗料を含む副資材コストの上昇にも拍車がかかり、エネルギー・物流費など諸物価も上昇しています。よって、これらコストアップへの対応が急務になっています。

このような環境下で以下の施策を実行し、収益確保を目指します。

1) 品質・操業安定化とともに、カラー鋼板の増能力、原単位・歩留改善による原材料高騰対応など、合理化を進めます。

2) 鋼板製品販売においては、お客様に原材料高騰が加速している状況をご理解いただき、再生産可能な適正価格の実現に取り組みます。また、小ロット品や低採算品の価格改善にも、お客様のご理解を頂けるよう引き続き活動します。

3) 建材事業については、高騰する原材料価格に見合う適正価格の実現とともに、高機能商品の開発・事業化により収益力アップを目指します。

以上